



ご逝去のお知らせ

第 46 回大会（広島）のご案内（第 1 報）

第 45 回大会（兵庫）報告

日本分類学会連合 第 12 回総会 報告

ABS 問題に関する説明会 報告

NBRP 事業について

「マトリョーシカ型進化原理」のご紹介

若手の会 通信

原生動物学関連の学会開催情報

事務局からのお知らせ

編集局からのお知らせ

ご逝去のお知らせ

本会名誉会員であり、原生動物学に偉大な業績を残された柳生亮三先生（広島大学名誉教授）が平成 25 年 3 月 31 日（日）に逝去されました。先生のご遺徳を偲び、心より哀悼の意を表します。

柳生 亮三（やぎゅう りょうぞう）先生

明治 38 年 10 月 26 日生（享年 107 歳）

日本原生動物学会事務局

第 46 回 日本原生動物学会大会（広島）のご案内（第 1 報）

大会長 細谷 浩史（広島大学大学院 理学研究科）

第 46 回日本原生動物学会大会は、下記の日程で広島大学東広島キャンパスにて開催されます。皆様ふるってご参加下さい。

- 1. 会期** 2013 年 11 月 8 日（金）～ 11 月 10 日（日）
8 日（金）： 若手の会、評議員会、若手の会・評議員会合同懇親会（予定）
9 日（土）： 一般講演、総会、学会賞・奨励賞授賞式、学会賞受賞者講演、懇親会（予定）
10 日（日）： 一般講演、シンポジウム（予定）
※ これらの予定は今後変更する場合があります。その場合は学会ホームページにて随時皆様にお知らせ致します。
- 2. 会場** 広島大学 東広島キャンパス（東広島市）（広島大学 HP：<http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>）
- 3. 発表** 液晶プロジェクターを用いた口頭発表、ないしはポスター発表。
皆様の発表方法がどちらかに偏った場合など、発表方法の変更をお願いする場合がございます。
- 4. 申し込み** 参加と発表の申し込み締切は、**2013 年 9 月 29 日（日）**です。
申し込みの詳細等は次号のニューズレターでお知らせ致します。
- 5. 大会参加費等** 大会参加費、懇親会費は、**当日受付にてお支払いください。**
大会参加費： 一般会員 3,000 円 学生会員 1,000 円
懇親会費： 一般会員 4,500 円 学生会員 2,500 円（懇親会費は変更される可能性があります）
- 6. 宿泊とアクセス** 広島大学最寄りの JR 西条駅周辺にホテル等が多数建設されております。先回の広島大会では多くの方が広島市内に宿を取っておられましたが、大学周辺のホテルが充実しましたのでご安心ください（念のため）。
西条駅から会場の広島大学まではほぼ一直線（ブルーパールと呼ばれる大通り）、バス（芸陽バス・JR バス）で 15 分程度です。ブルーパール周辺のホテル等を予約されると移動に便利です。
山陽新幹線東広島駅周辺にも多数のホテルがありますが、バスなどの交通機関についてはまだ未整備です。特に土日祝日はほとんどのバスが運休しており、移動手段はタクシーしかありません。ご注意ください。
お車で来場される場合は、山陽自動車道西条インター、あるいは志和インターをご利用いただき、約 20 分で広島大学に到着します。金曜日は大学への入校ゲートが稼働していますので、ゲート係員に学会で来校した旨を伝え、その場で入校許可証をお受け取りください。**土日については事前に（大会当日ではありません）大会事務局までお問い合わせください。**その他の詳細は第 2 報でお知らせ致します。
- 8. 大会事務局** 〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻
第 46 回日本原生動物学会 大会事務局 細谷 浩史
E-mail: hosoya@hiroshima-u.ac.jp

第 45 回 日本原生動物学会大会（兵庫） 報告

大会長 園部 誠司（兵庫県立大学大学院 生命理学研究科）

日本原生動物学会第 45 回大会は、2012 年 11 月 23 日から 25 日までの 3 日間、兵庫県立大学姫路書写キャンパスで開催されました。本大会参加者は 89 名（一般 40 名、学生 49 名）で口頭発表 24 題、ポスター発表 17 題の一般講演がありました。また、1 日目は若手の会と共催で原生動物フェスティバルが開催されました。公開シンポジウムも 2 つ開催され、2 日目には若手の会、新学術領域「マトリョーシカ型生物進化」との共催で「細胞内共生と生物進化の新たなトレンド」と題して、3 日目には新学術領域「運動超分子マシナリーが織りなす調和と多様性」と題して行なわれました。いずれのシンポジウムも多種多様な生物が登場し、大変面白く、有意義なシンポジウムとなりました。また特に、多くの学会員ではない演者の方々に来ていただいたことは本学会の将来のためにも有益であったと思っております。



会場遠景



原生動物フェスティバル



会場内にずらりと並ぶ顕微鏡 グッズ販売コーナーも併設

原生動物フェスティバルは今回初めての試みでした。顕微鏡による観察、簡単な実験、ビデオ上映、原生動物の無料配布、シンポジウム、講演会など盛りだくさんでした。この企画のきっかけは、現在ミクロ生物館の協力で行なわれている原生動物の頒布に多くの申し込みが寄せられていることと、私が地元の小学校で行なっている出前授業で子供たちはもとより先生方にも原生動物に興味を持っていたことでした。先生方を通じて子供たちに原生動物の面白さを伝えることができるのではないかと考えました。そこで地元の兵庫県の西部地区を対象にして、教育委員会を通じて案内を出させていただきました。残念ながら当日の参加者は 72 名で期待していたほどではありませんでした。この原因は日程にあったようで、この時期小中学校ではいろいろな行事が行なわれており、参加したくてもできなかったというのが実情のようでした。しかし、遠く三重県からグループで来ていただきました。参加していただいた先生方には大いに楽しんでいただけたようでした。原生動物の無料配布を目的に大量の空き瓶を持って来られた先生もおられました。瓶は空のままお持ち帰りいただき、エッペンチューブに入れたものをお渡ししました。さて、準備が大変で参加者数が予想を下回ったということはありませんが、この催しは今後も続けていければ、と思っております。山中先生が iPS 細胞でノーベル賞を授与されました。これはもちろん喜ばしいことですが、一方でますます生物学の応用面が注目され基礎的学問分野に陰を落とすことにならないか、と心配です。これを杞憂にするためにも原生動物を宣伝しましょう。どうでしょう、次期大会長細谷さん。できる限りのお手伝いはさせていただきます。この催しを開催するに当たり、若手の会の皆様、神戸大洲崎研の皆様、原生動物を提供していただいた先生方、研究室の学生諸君のご協力をいただきました。ありがとうございました。



若手の会・評議員会合同懇親会（上 2 段）と懇親会 2 次会（下 1 段）

さて、学会本大会です。いつものようにさまざまな原生動物の幅広い研究分野の話を聞くことができました。いつも思うことですが、1 個の細胞でさまざまな機能を有し、さまざまな生き方をしている原生動物は本当に興味がつきませんね。実物をまだ見たことがないものも多く、それぞれについて観察や実験をしたくなります。今回は 41 演題中 BPA 対象発表が 25 演題で例年より若手の発表が少し少なかったように思いました。若手の皆さん、頑張ってください。BPA には谷口篤史氏の「*Amoeba proteus* のアメーバ運動における膜および細胞質動態の三次元解析」と岸本有加氏の「*Craticula* sp. (ガイコツケイソウ) からのアクチンフィラメント単離」が選ばれました。両氏とも開催地の学生であり、大変驚き、戸惑いました。恐縮しつつ感謝申し上げます。



一般講演とポスター発表

今回は前回の奈良大会で予告した日程や場所を変更し、皆様大変ご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ありませんでした。また、そのこともあってか当初参加申し込みが少なく、藤島会長や堀さん、学会活性化委員会の皆様には参加を募っていただいて、なんとかいつもの規模で開催することができました。ありがとうございました。



BPA 授賞 谷口 篤史 氏 BPA 授賞 岸本 有加 氏

今井 壯一 新会長

藤島 政博 前会長



懇親会（上）と懇親会二次会（左下）

さて、会員の皆様には大会を楽しんでいただけたでしょうか。今大会に対するご意見がございましたら何でも結構ですから私までお知らせください（この拙文に関するご意見でも結構です）。今年度から今井新会長の下で評議員をやらせていただくことになりましたので皆様のご意見をぜひ学会運営に反映させていきたいと思っています。それではまた、広島でお目にかかりましょう。



兵庫県立大学 本部棟前にて 大会参加者一同

日時 2013 年 1 月 12 日（土） 10：30 ～ 12：00

場所 国立科学博物館 上野本館 講堂

出席 今井 壯一（会長），島野 智之（庶務）

【 報告事項 】

（報告 1）活動報告

2012 年

- 1 月 6 日 第 26 回役員会を開催（国立科学博物館分館）
- 1 月 7 日 第 11 回総会，第 11 回公開シンポジウム「種の記載の現場に迫る」を開催（東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール）
- 1 月 24 日 与那国島への自衛隊配備計画に関わる要望書を提出
- 4 月 2 日 第 27 回役員会を開催（東京大学総合研究博物館）
- 6 月 5 日 琉球大熱帯生物圏研究センターの新部門・熱帯生物総合情報部門の設立，及び，組織の拡充についての要望書の提出
- 8 月 20 日 ABS（Access and Benefit Sharing：遺伝資源の利用から生じた利益の公平な配分）に関する要望書を文部科学省に提出
- 12 月 15 日 GBIF ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究（通算第 7 回）絶滅危惧種と生物多様性情報（主催：国立科学博物館／東京大学大学院総合文化研究科/国立遺伝学研究所）を後援

2013 年

- 1 月 11 日 第 28 回役員会を開催（東京大学総合研究博物館），ABS 問題に関する説明会を開催

（報告 2）ニュースレター

2012 年 6 月 26 日に第 21 号を発行

2013 年 1 月末日に第 22 号を発行

最新号は連合ホームページ（http://www.ujssb.org/NL/pdf/NL_22.pdf）よりダウンロード可能

（報告 3）ホームページ報告

連合のホームページをさくらインターネットのサーバーに移管し，問題なく動いている．

（報告 4）データベース報告

日本産種名リストデータベースについては昆虫植物などで作成が進んでいるが，魚類はデータ受領待ちである．

（報告 5）メーリングリスト

Taxa 会員がまもなく 1,000 名に到達する．

【 審議事項 】

役員会案

（審議 1）

監査員として，篠原明彦（国立科学博物館動物研究部）が選出された．

（審議 2）

分担金支払状況 / 決算案（一般会計，特別会計） / 会計監査報告 / 特別会計（命名規約の頒布金） / 会計監査報告
以上が承認された．

（審議 3）

2013 年度事業計画

3-1) 生物科学学会連合への加盟が了承された．

- ・日本分類学会連合全体で，分担金 5 万円（中西印刷の運營業務委託）．生物科学学会連合総会は活発で，年間 2～3 回のペースで開催される．
- ・各学会で個別に入っても良いのだが，連合として加盟したほうが，各学会への負担が少なくてすむので良いのではないかな．
- ・日本進化学会は単独で加盟している．1 票が学会に与えられるので単独で入ったほうが発言力は大きくなる．しかし，総会に代表を 1 名送る必要がある．
- ・生物教育をどのようにしていくか等について，文部科学省に働きかけを行う．地学等は人数が多く纏まっている為発言力が強い．

3-2) 2013 年第 12 回公開シンポジウムの開催

3-3) 2014 年第 13 回公開シンポジウム

2014 年 1 月 11 日（土）午後で，承認された．4 月の連合の役員会で内容を調整する．

3-4) ABS の説明会

夏辺りに ABS の動きがあると思うので，恐らく，日本進化学会大会の時期に集まりを持たなければならないのではないだろうか．

3-5) ニュースレター

- ・23 号, 24 号の発行を予定している。加盟団体からの記事を募集している。ニューズレター担当者へ。

3-6) ホームページ

分類学に関する情報の掲載を継続的に行う。

3-7) データベース

国内の重要コレクションの実態調査、日本産生物種数調査の情報を国立科学博物館サーバーに移転するためデータベースのプログラムを修正する。

3-8) その他

動物命名法国際信託へのご寄付のお願い。

動物命名法審議会の運営は信託により行われており、ZooBank などが運用されている。運用の予算額は十数万ポンド (1,600 万円) で、ほとんどが人件費。

毎年、約半額を基金から回していたが、今年その基金が尽きてしまうので、緊急の募金活動を行いたい。現在、日本動物分類学会と日本魚類学会が定期的に寄付を行っており、過去には日本蜘蛛学会が寄付を行っている。

以上、日本分類学会連合 庶務 富川光 先生 作成の議事録に基づいています。

ABS 問題に関する説明会 報告

庶務補佐 北出 理 (茨城大学 理学部)

「ABS」とは「Access to genetic resources and Benefit Sharing」の略で、「遺伝資源へのアクセスとそこから生じる利益の公平な配分」を意味します。研究や教育に利用される「生物・生物標本・DNA 試料・培養株など」はみな遺伝資源にあたります。現在、これらを国外で調査したり、採集や譲渡によって国外から日本へ持ち込む場合、以前に比べ十分な注意と準備が必要な状況になっており、これが ABS 問題と呼ばれます。

2013 年 1 月 11 日、日本分類学会連合主催の ABS 問題に関する説明会が東京大学理学部で開催されました。分類学会連合の村上哲明さんによる説明に続き、日本育種学会の渡邊和男さんによる講演「学術研究における ABS の課題点」が行われました。筆者の把握できた範囲に限られますが、話を総合して概要を報告します。

* ABS 問題とその経緯

1993 年に「生物多様性条約 (CBD)」が発効しました。この条約は (1) 生物多様性の保全、(2) 生物多様性の構成要素の持続的利用、(3) 遺伝的資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な分配、を目指すものです。この条約は保有国の遺伝資源に対する「主権的権利」を認めています。

(3) の目的に関して、2010 年に「名古屋議定書」が採択され、日本も署名しました。署名した各国は ① ABS に関する国内法を整備し、② 海外の生物資源にアクセスする際には、その国の国内法に従うことになります。さらに、③ 外国の ABS 国内法に違反して遺伝資源を持ち出すと国際違反となり、日本が行政・法律上の措置を講ずることになります。つまり、日本の国内法施行後は、日本国内法により罰せられます。

現在、環境省主導で「名古屋議定書に関わる国内措置のあり方検討会」が行われています (1 月 30 日に第 5 回検討会)。今年夏に報告を纏め、これが ABS 国内法の原案になると思われます。

* 現状での注意事項

国内法はまだ検討段階です。今後具体的に何が問題になるか不明な点が多いですが、下のような点に注意すべきだと考えられます。

① 海外調査では

- ・必ずカウンターパート (当該国の相手方研究者) を立てる。
- ・National Focal Point (相手国で調査申請の交渉窓口となる役所等) を同定して、事前手続きを行う。
- ・観光ビザでなく、適正なビザを取得する。
- ・どこの誰と手続きしたか等も含め、とにかく文書で記録を残す。
- ・相手国カウンターパートの、手続きに関する理解力についても確認する。
- ・カウンターパート側と学部間協定等を結ぶとよい。
- ・時間がかかるが、気長に準備を進める。

② 研究材料の持ち出し・譲渡をうける際

- ・権利を確認し、譲渡によって負う責任を明確にする。
- ・文書 (材料譲渡契約書: MTA) をきちんと残す。

なお、「野外調査」自体もアクセスに含まれること、交渉先窓口をはっきりさせることが重要であること、大学や研究機関に既存の標本も (1993 年以降のものは) 情報管理が必要になる可能性があること、等も指摘されました。

日本分類学会連合では、定期的に説明会を開催予定です。具体的法案等が出されたら、迅速な検討・対応が必要になると予想されます。連合から随時情報を提供するため、関心のある研究者のメール連絡網を構築しています。

村上哲明さん (E-mail: nmurak@tmu.ac.jp) に「ABS」というタイトルでメールをお送りいただければ、メールでの連絡を受けることができます。

以下のホームページの説明も参考になると思います。

- ・国立遺伝学研究所 ABS 学術対策チーム <http://idenshigen.jp/>
- ・文部科学省 「海外での遺伝資源取得にあたっての留意点について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/010/1318827.htm

文科省中核的拠点整備プロジェクト「ゾウリムシリソースの収集・保存・提供」事業について

藤島 政博（山口大学大学院 理工学研究科）

2012 年 6 月に、文科省中核的拠点整備プログラムの第 3 期ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）に山口大学による「ゾウリムシリソースの収集・保存・提供」が採択されました。NBRP は、ライフサイエンスの研究に広く用いられる実験材料としてのバイオリソースのうち、国が特に重要と認めたものについて、体系的な収集、保存、提供体制を整備することを目的とした国家プロジェクトです。NBRP ゾウリムシは、国際標準となる高品質のゾウリムシリソースを整備するとともに、国内外のユーザーの希望に応じた株を提供することを目的として、次のような事業を実施します。どうぞご利用ください。

野外から採集されたゾウリムシ属の多様な種を収集し、シンジェン（syngen）、接合型、採集地、特徴などの情報と共に提供致します。文部科学省の指導に基づいて、NBRP リソースの提供に直接掛る実費（約 40 mL 培養、300 円、送料着払）を利用者の皆様に負担して頂きます。これは事業維持のための方策であり、利益を得るためのものではありません。また、支払い方法は、本件の業務の一部を委託されている有限会社山口ティー・エル・オーの発行する請求書に従い、山口ティー・エル・オーの指定する銀行口座へ支払っていただきます。ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

実費での提供は、平成 24 年 10 月 1 日から実施しております。株の寄託も受け付けます。下記の URL をご確認ください。

NBRP-ゾウリムシ <http://www.shigen.nig.ac.jp/paramecium/>

ゾウリムシ属は、記載種が約 50 種存在しますが、現在でも野外から採集可能な種はこの半数です。この事業は、ゾウリムシ属の種の保存の機能も担います。

この事業によって国際的に重要なリソース拠点を形成するとともに、これまでゾウリムシを利用した経験がない研究者でも培養の維持を適切に行えるように必要な技術等のマニュアルもダウンロードできるようにする予定です。

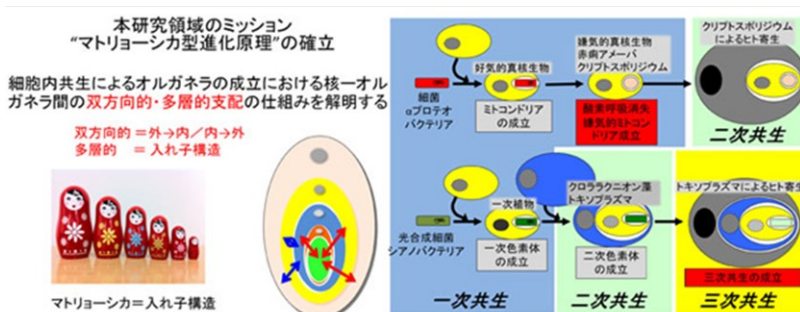
質を保証できる細胞を良い状態でお送りし、研究や教育に使っていただきたいと願っております。そのため、仲介人等を経由しないやり方で利用者に直接発送致します。第 3 者への提供の仲介役を果たすことをご計画の場合や販売目的の方には提供致しません。

問い合わせ先：藤島政博 nbrparam@yamaguchi-u.ac.jp

文科省科研費新学術領域研究「マトリョーシカ型進化原理」のご紹介

洲崎 敏伸（神戸大学大学院 理学研究科）

平成 23～27 年度を研究機関として現在実施されている大型プロジェクト研究の一つに「マトリョーシカ型進化原理」があります。このプロジェクトは、真核生物の持つオルガネラの進化機構や、オルガネラによる宿主細胞に対する機能改変という現象の分子的理解を目的としています。マトリョーシカとは皆さんがご存知のように、何重もの入れ子になったロシアの人形のことで、複数の細胞内共生によって駆動されてきた真核生物の進化は、まさにマトリョーシカ人形を想起させるような出来事です。細胞内共生によって起きる生物同士の相互作用、オルガネラの成立と機能的変化は、その入れ子様の構造に例えて「マトリョーシカ型相互作用」と呼ばれます。さらに、このような共生関係に基づくオルガネラの出現機構、生物の進化機構は「マトリョーシカ型進化原理」と呼ばれています。このプロジェクト研究では、共生・寄生に駆動されるオルガネラと真核生物の進化を、寄生性および自由生活性の原生生物を対象として研究を進めている多様な研究者が協力し合い、多層空間的に理解することを目指しています。



「マトリョーシカ型進化原理」研究の概要

詳しくは、プロジェクトのホームページ

<http://www.matryoshka-evolution.jp/> をご覧下さい

公開シンポジウム「細胞内共生と生物進化の新たなトレンド」のポスター

このプロジェクトには、日本原生動物学会会員の橋本哲夫（筑波大）・洲崎敏伸（神戸大）・橘裕司（東海大）、並びに永宗喜三郎（感染研）が計画班員として参加しています。また、昨年の日本原生動物学会では、本領域による公開シンポジウム「細胞内共生と生物進化の新たなトレンド ～フツーじゃない生物進化があります～」を開催しました。このシンポジウムには、中・高の学校の先生などを含む約 70 名の参加者があり、活発な議論が交わされました。

また、同じ日には、本領域も協力して企画した「原生動物フェスティバル」という催しも開催されました。ここでは、さまざまなマトリョーシカ生物を研究室から持ち寄って展示し、原生動物学会の大会参加者のみならず、小・中・高等学校の生徒さんや、一般の皆様実際に顕微鏡などを使って観察していただきました。本領域の皆さんから提供していただいたマトリョーシカ生物は、クロララクニオン藻 *Amorphochlora amoebiformis* (筑波大・石田研)、ミドリウミウシ *Erysia ornate* とハネモ (ミドリウミウシが捕食する藻類) *Bryopsis plumosa* (京都府立大・小保方研)、マラリア原虫の塗抹標本 *Plasmodium falciparum* (感染研・永宗研)、ミドリゾウリムシと白化ミドリゾウリムシ *Paramecium bursaria*, ミドリマヨレラ *Mayorella viridis*, グリーンヒドラ *Hydra viridissima* (神戸大・洲崎研) などでした。普通は簡単には観察できない生物が多く含まれており、特に小学生が歓声を上げながら顕微鏡に見入っていた様子が印象的でした。これらの企画の実現にご尽力をいただきました本学会の大会長・園部誠司先生 (兵庫県立大) に感謝申し上げます。なお、平成 25 年には新たな公募研究の提案が募集されますので、本研究分野に興味のある皆さんの積極的な応募を、どうぞよろしくお願い致します。



若手の会 通信

若手の会ホームページをぜひご覧ください

<https://sites.google.com/site/youngprotozoologists/>

若手の会メーリングリストへのご登録をお願いします

protozoologists-subscribe@yahoo.co.jp に空メールを送付

原生動物学会兵庫大会 若手の会 活動報告 若手の会会長 松原 立真 (筑波大学大学院 生命環境科学研究科)

昨年の兵庫大会では、原生動物学会本会との合同主催で「原生動物フェスティバル」を行いました。これは原生動物をもっと世の中に知ってもらうため、一般向けの様々なイベントを行う意欲的な試みです。当日は高校の先生や学生さんにも参加して頂き、非常に盛況でした。原生動物を生で見られる顕微鏡ブースや、自分で出来る体験実験コーナー、原生動物トランプの販売などが人気で、多少なりとも原生動物のことを知ってもらう力となれたのではと思います。

また、若手の会が主催する「若手の会ワークショップ」も例年通り開催されました。今回のワークショップの目標は、私たちの「あたりまえ」をブレイクすること。講演に来て頂いたのは 3 名の若手研究者です。海老根博士 (国立感染研) には細胞内の膜輸送に関わる分子メカニズムについてご講演頂きました。分泌、食作用は細胞の基本機能ですが、そのためには非常に精巧な膜輸送の制御系があるとか。熱く語る姿が印象的でした。筑波大学の石川氏には、私たちもなじみの深い「分子系統解析」について最新の知見をご紹介頂きました。いわゆる系統関係の推定は、それ自体が学問として成立するほどに奥が深い分野です。普段何となく系統樹を書いていた方は、ハッとされたのではと思います。また、日本女子大学の土金博士には、緑藻の仲間であるミカヅキモの有性生殖について詳しくお話を伺いました。「性」の獲得は生物進化における非常に重要なイベントです。しかしその謎の鍵を握る原生動物の分野で、必ずしも研究者は多くないように感じます。困難な課題に挑戦されている博士のお話は大変興味深いものでした。また写真が非常に美しいのが印象的で、やはり原生生物の研究は楽しいと改めて感じました。

兵庫大会での若手の会活動は、大会長の園部先生ほか先生方のご支援により成功を収めることが出来ました。次期大会でも、より面白く刺激的な企画を出来るよう準備して参りますので、今後とも若手の会の活動にご期待下さい。



原生動物フェスティバル



勉強会・ワークショップ



若手の会・評議員会合同懇親会と二次会

私たち若手の会は今年も研究者はもちろん、一般の人にも原生生物の魅力と研究の今を発信すべく日々活動しています。「原生動物園」の発刊はその一環であり、今後も多くの人が原生動物の魅力に触れられるような企画を行う予定です。

最後になりましたが、私たちの活動を温かくご支援くださる先生方に厚くお礼申し上げます。今後とも、ご指導ご助言のほどよろしくお願い致します。

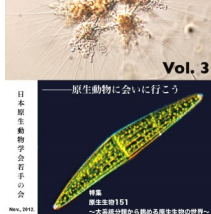
若手の会 役員一同

原生動物園

原生動物園 Vol. 3 が発行されました！

原生動物園 HP (<https://sites.google.com/site/protozoolgarden/>)

より閲覧可能です。
どうぞご覧下さい。
今回も魅力的な
記事満載です。



2013 年度 若手の会役員

会長	松原 立真 (筑波大学)
会計	梁瀬 隆二 (兵庫県立大学)
編集長	早川 昌志 (神戸大学)
役員	末友 靖隆 (ミクロ生物館)
役員	福田 康弘 (東北大学)
役員	久富 理 (富山大学)
役員	芝野 郁美 (京都大学)
役員	山新 良彦 (広島大学)

原生動物学関連の学会開催情報

第 6 回 日本進化原生生物学研究会

日時：2013 年 6 月 29 日（土）～ 30 日（日） 会場：神戸大学 梅田インテリジェントラボラトリ（阪急「梅田」駅より徒歩 3 分）
参加費：無料 詳細情報：<http://square.umin.ac.jp/jsep/>
6 月 30 日（日）には、会場横のホールにて第 4 回西日本原生生物コロキウムが開催されます（参加費無料・原生生物観察会・配布等）

FASEB Ciliate Molecular Biology Conference

日時：2013 年 7 月 7 日（日）～ 12 日（金）
会場：Colorado, USA 詳細情報：<http://www.faseb.org/src/Home.aspx>

14th International Congress of Protistology (ICOP XIV)

日時：2013 年 7 月 28 日（日）～ 8 月 3 日（土）
会場：Vancouver, CANADA 詳細情報：<http://www.icoprotist.com/>

※ 国際原生生物学会議・派遣費助成の募集は締め切りました

事務局からのお知らせ

庶務 島野 智之（宮城教育大学 教育学部）

田邊和祐先生からのご寄付

ご退職に伴い退会されました田邊和祐元会員（大阪大学微生物病研究所・分子原虫学部門招聘教授）から、2013 年 2 月に「長年にわたり研究活動を支えて下さった貴学会に対して謝意を表したい」旨ご連絡があり、10 万円のご寄付を頂きました。ここに感謝の意を表しますとともに、今井壯一会長から礼状をお送りしましたことをご報告申し上げます。

教育賞審査基準見直しについて

教育賞の審査基準の見直しがメール評議員会にて行われました。詳細は、近いうちに行われます教育賞の公募をご覧ください。

2013 年度国際原生生物学会議・派遣費助成審査結果

学会賞等選考委員会において慎重に検討した結果、本年度は該当者無しといたしました。

学会誌投稿規程の改訂

このたび学会誌投稿規程を改訂いたしました。投稿をお考えの方は、新投稿規程にしたがって論文原稿を作成くださいますようお願い致します。新規規程は、原生動物学雑誌に次号より掲載されますが、それまでは学会ホームページ (<http://protozoology.jp/>) からダウンロードしてご覧ください。ホームページをご覧頂けない場合は、恐れ入りますが編集局（住所・電話番号等は本誌巻末に記載）までお問い合わせください。

編集委員会からのお知らせ

学会員の皆様へ 編集委員会からのお知らせとお願い

平素は原生動物学雑誌への御厚情を賜り、心より御礼申し上げます。
我々編集委員一同、原生動物学雑誌をより良いものにするべく努力を惜しまず活動しておりますが、残念ながら 2013 年春発行予定でありました第 46 巻 1 号は十分な掲載論文数を確保できないため印刷を見送り、昨年同様 1, 2 号合併号として秋に発刊させていただくことといたしました。何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

昨年、今年とこのような発刊体制となりましたのは、これまで毎巻1号に掲載しておりました前年度大会の講演抄録が廃止されたこと、そして何より投稿論文の少ないことが大きな要因であります。掲載論文数の確保は、歴代の編集委員会も奮励してきた難題であります。できますれば、これから年 2 回の発刊体制を続けていきたいと思っております。どうか学会員の皆さまの積極的なご投稿を心よりお願い申し上げます。

現在、編集委員会では、原生動物学雑誌の様々な改革に取り組んでおります。雑誌の知名度を高め、海外研究者を含む学会外部からも多くの投稿をいただけるような雑誌を目指しております。昨年実施させていただきました原生動物学雑誌に関するアンケートの中に、PubMed 等による検索対象雑誌になることや、インパクトファクターの取得を望む回答が複数見られました。これらは学会外部からの投稿を増やすためには有効な要素なのですが、そのような雑誌になるためには、過去数年間における安定した掲載論文数と発刊実績が問われます。したがって、まずは学会員の投稿数を増やしていかなければどうにもなりません。どうか原生動物学雑誌がそのような雑誌となれますよう皆様のお力をお貸しいただけませんか。「そのような雑誌になったら投稿する」のではなく、「そのような雑誌にするために投稿する」という気持ちをお一人おひとりにお持ちいただければと思います。原生動物学雑誌は、日本原生動物学会会員皆様の雑誌であります。

なお、研究室を主催されている先生方にはご投稿をお願いする不躰なメールをお送りさせていただくかもしれません。その時には是非とも良いお返事をお願いいたします。各研究室から数年に 1 度ご投稿いただけるだけで状況は大きく好転いたします。

どうぞ皆様のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

原生動物学雑誌 編集委員一同

編集・刊行 日本原生動物学会 編集事務局

〒 651-2492 神戸市西区岩岡町岩岡 588-2
情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 バイオ ICT 研究室（編集長：岩本 政明）
Tel：078-969-2247 Fax：078-969-2249 E-mail：iwamoto@nict.go.jp
ニューズレター担当 末友 靖隆（岩国市立ミクロ生物館）

Protozoology Newsletter 24 号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください。

http://protozoology.jp/journal/nl_letter/NL24.pdf